



東京部会(第75回)

日時:	2015年5月20日(水) 19:00-21:30
場所:	日本大学経済学部本館2階中2会議室
参加者:	[順不同・敬称略] 篠原(京都学園大学)、中川(日本大学)、加藤(慶應義塾大学)、石山(東京証券取引所)、榑原(東京証券取引所)、大倉(千葉県立松戸向陽高)、杉田(千葉県立津田沼高)、塙(都立府中東高)、星(鎌倉市立大船中)、中沖(清水書院)、鈴木(日本経済研究センター)、新井(上智大学)、以上12名

【内容要旨】

- (1) 夏の経済教室の準備状況が石山さんから報告があった。チラシが完成し、5月29日に発送予定。9,334校に発送する。Webの申し込みは5月29日9:00～。後援関係は例年通りでネットワークと東証で分担して申請。研究会などを通してのちらし配布など宣伝の協力要請があった。教科書の寄贈は、清水、東書、帝国、日本文教出版に中学現行本を依頼。高校の教科書依頼は今年行わない。中学では、新教科書の採択時期なので、見本本を展示するなどである。
- (2) 夏の教室での講義内容の確認も併せて行った。河原先生の地理教材の進捗状況、実践報告の「時間の経済学」の検討、篠原先生講義の質問事項などが検討対象となり、それぞれ確認と課題が提示された。
- (3) 各部会報告では、大阪部会に出席した塙先生、石山さんから当日の報告があった。大阪は東京と異なり、参加者の発言が活発で、教材検討の熱意が高いということであった。東西交流によって、ネットワーク発の教材開発が継続されることが期待される。
- (4) 篠原先生から、京都部会の中心メンバーであった奥村光太郎先生の逝去が報告された。奥村先生は、今春から同志社大学の教授となられ、活躍が期待されていただけに突然の訃報であり、参加者はその逝去を悼んだ。
- (5) 教材の検討が三本あった。第一は、塙先生の「時間の経済学ーあなたはありそれともギリギリスー」である。この教材は前回の東京部会で検討され、それをもとに改定したものが大阪部会でも検討された。主な改定点は、10万円を銀行に預けた場合、タンス預金にした場合、それぞれ一年後にはいくらになるか、という質問をいれたこと、10万円があったら、今使うか、銀行に預けるか、塾に通うかを選ばせる質問をいれたことである。大阪部会では、半分までは中学生でも使えるという評価をえたとのこと。東京では、中学生でも前半までなら十分に興味をもって取り組めるだろうから基本はこれでよいという意見が星先生からだされた。また、二番目の質問は、三つから選択させるが、本質的には、銀行に預けることも塾に通うことも投資としては本来同じものであることをおさえておくことが中川先生から指摘があった。時間の経済学、割引率の理解がどこまでできるか、ここから何を目指すかが課題であり、みんなで教材としてブラッシュアップしてゆくことが了解された。
- (6) 教材検討の二番目は、大倉先生の「減価償却をどう教えるか」である。これも前回の東京部会で検討されたもので、大倉先生からは、前回の教材の修正版として、ジャムのかわりのお皿版、さらにお皿プラスコップ版の新たな二本が提示された。検討では、お皿やコップだと何度も使うと言う意味では減価償却のイメージは捕まえられるが、消耗品扱いになるので、パンの素材だったらトースターなどの機器を登場させる方が良いと



いう意見が出された。また、そもそも減価償却が高校生にどこまで必要なのか、国民所得の箇所です突然登場する固定資本減耗にとらわれ過ぎているのではないかと、教科書の記述などの改善が必要ではとの意見もだされた。教材としては、コンパクトで使いやすいものになっているので、共有してゆこうということとなった。

- (7) 三番目は、教材検討委員会で取り組んでいる「たこ焼き屋ヤッキー」である。これも前回の改訂版が出され検討が加えられた。生産が変身(付加価値を付け加える)であることを伝えるねらいの教材だが、利潤と付加価値の関係、経費の内訳に賃金が入っていて、その扱い(賃金は付加価値から分配されるが、会計的には費用扱いになる)の難しさをどう処理するかなどが議論がされた。夏の教室での報告までにさらに今回の検討課題を見直して再度検討することとなった。

以上 記録と文責(新井)

次回開催予定:6月25日(水)19:00~21:00。場所は日本大学経済学部本館2階会議室予定。議題は、夏の教質で提示する教材に関するディスカッションほか。